

PC-64.**8列 MDCT における冠動脈ステント内評価の有用性**

(内科学第二)

○川出 昌史、山田 昌央、冬野 隆一
木内信太郎、服藤 克文、小林 秀行
平野 雅春、寺岡 邦彦、山科 章

(放射線部)

白井 誠司、平瀬 繁男、白岩 啓志

(放射線科)

阿部 公彦

【背景】 MDCT は非侵襲的に冠動脈を評価する検査法として注目され、冠動脈狭窄診断において高い診断能を示すことが報告されている。

しかし、8列 MDCT においてステント内評価はアーチファクトの影響により、困難とされている。

【目的】 8列 MDCT におけるステント内再狭窄評価が可能であるか、CAG と比較検討した。

【方法】 8列 MDCT (GE lightspeed ultra) を用い心電図同期化に冠動脈を撮影し、MPR 画像を作成した。ステント内腔を5段階にグレーディングし、視覚的評価をした。さらに、ステント短軸直交断面において、CT 値からプロフィールカーブを作成し内腔を計測し、QCA と比較検討した。

【対象】 対象はステントを挿入した患者で、1ヶ月以内に CAG と CTCA を施行した 14 症例 29 病変。男性 12 例、女性 2 例で平均年齢は 66 ± 7.2 歳。

【結果】 MDCT のステント内グレーディングは、 3.96 ± 0.19 であった。ステント内径値は、MDCT で 3.25 ± 0.64 、QCA で 3.06 ± 0.52 で、両者に有意差を認めず ($P=0.3$)、相関を認めた ($r=0.53$)。

【結語】 8列 MDCT においても、全例でステント内腔描出が可能であった。ステント内径は、MDCT と QCA で有意差を認めず相関を認めた。ステント内再狭窄評価に 8列 MDCT は有効と考えられた。